

## 雪洞とイグルー体験報告

【日 時】 2月18日～19日

【参加者】 CL 平野（直）、SL 上茂、狩野、佐藤、鶴田、時田、小原、宮城、萱野（香）、  
 蘭田、加藤（記録）

【場 所】 桧枝岐近郊

【報 告】

今回は雪洞とイグルーを作り、宿泊する訓練であり、場所は2週間前に下見を行った場所から選んだ。当初「奥会津スノーハイク」という山行名であったが、2日目の天候が思わしくなく、山には入らなかった。

会津田島の2軒しかないスーパーの1つヨークベニマルに立ち寄った後、桧枝岐へ向かう。車道から100m入った閉鎖された無人の建物の脇に屋根から滑り落ちた雪が溜まっている場所に雪洞を、その前の広場にイグルーを制作することになった。車2台分の駐車スペースから狩野さんのソリを利用し調理用具やスコップなどの器材を運び込んだ。イグルーは長方形の雪のブロックを積んでカマクラのようにするのだが、大きくなりすぎたため天井が塞がらずタープを利用して天井代わりにした。同時に制作した雪洞は狩野さんを中心にが渾身の力で掘り奥行きが7～8人が泊まれる大きなものとなった。夕食は炭火をおこして焼鳥、ニンニク焼、大鍋に大量のアンコウの肝と平野さんが前夜家でさばいてきたアンコウの肉を投入し味噌で味付けした「どぶ汁」を作った。目の前の斜面で数人ソリに乗って急斜面を滑り降りて楽しんでいた。夜になり、イグルーの中にテーブル、どぶ汁の鍋を運び込み宴会となった。あんこう鍋を食べたことはあるが、どぶ汁は初めてである。イグルーはブロックの間が透き間だらけだったが、熱気で気にならなかった。雪が降り始め、吹雪模様となったので、雪洞の前の軒下の雪をならして二次会の場所を作った。イグルーから銀マットを引っ張り出すとき何故かイグルーの壁が崩壊してしまった。軒下を整地し寝られそうであるが、奥の方から風が吹き込み、水が滴り落ち快適とは言えなかった。雪洞は天井がドーム状でランタンの灯りが白く反射し、雪のホテルのような感じで極めて快適だった。参加者11名のうち、雪洞に5人、軒下に4人、何故か車に2人泊まった。

翌朝はあいにくの吹雪模様、奥会津恵みの森にスノーハイクに行く計画であったが、天気は回復せず、深沢温泉「むら湯」の茶褐色の湯に浸かり、塩原、日光方面にある大辛大根そばの店「横川のさと」で手打ちそばを頂き、帰葉した。



雪洞・イグルー制作作業

イグルー完成



お昼は焼き鳥・ホットワイン

イグルー内 11 人入れる B I G サイズ



雪洞も BIG サイズ



濃厚どぶ汁